

今、幼稚園に求められている支援のあり方

野澤 祥子

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター



内容

- 1) 乳幼児の発達と遊び、環境構成
- 2) 保護者支援・保護者との連携
- 3) 研究機関と現場との連携

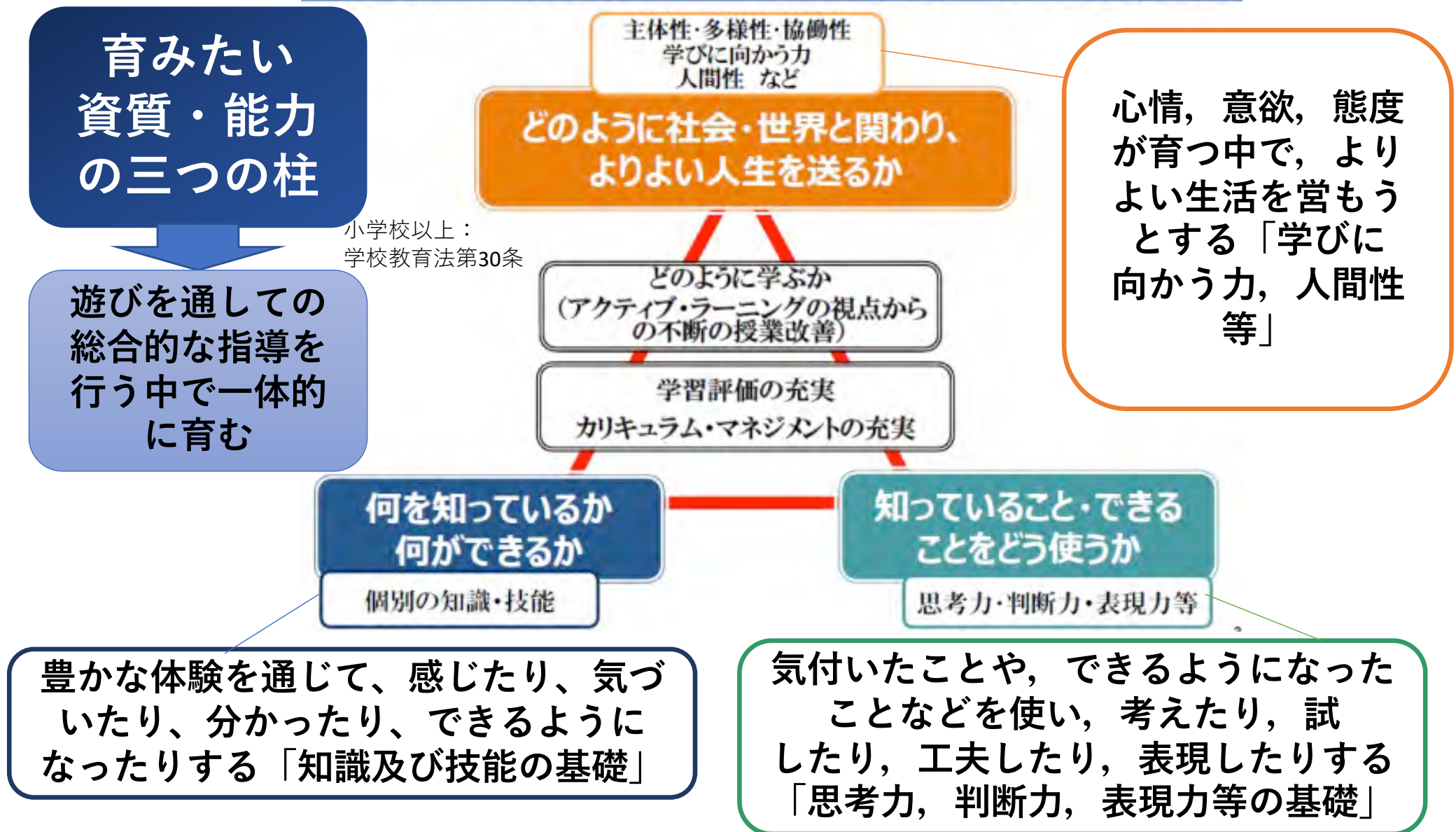
Ⅰ）乳幼児の発達と遊び、環境構成

□ 幼稚園教育要領 前文

これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。

□ 育みたい資質・能力

育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念



中央教育審議会 教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料（平成28年）・
幼稚園教育要領（平成29年告示）より

□ 主体的・対話的で深い学び

無藤（2018）

主体的である

「子どもが心動かされ、意欲をもち、周りの事物に意味あるものとして関わっていき、先への見通しをつくり出しあるいは示されながら、やってきたことをふり返る」ことで成り立つ。

対話的である

「互いの思いや感じ方や考え方を言葉や身ぶりや作品その他により伝え合いつつ、物事を多面的に理解し、それぞれの考えを深めていくこと」

深い学び

「幼児教育の見方・考え方※につながるような学びが展開すること」

※幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして試行錯誤したり、考えたりするようになる（幼稚園教育要領）

□ 幼稚園教育要領における遊びとは？

第1章 総則

第1 幼稚園教育の基本

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。このため教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付く、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。これらを踏まえ、次に示す事項を重視して教育を行わなければならない。

1 幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。

2 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。

3 幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。

その際、教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。

□ 保育の環境

保育室

- 室内の環境
 - ・ 遊びのための玩具、素材、道具
 - ・ 動線（遊び、生活等）
 - ・ 居心地の良さ
- 保育者のかかわり
 - ・ 子どもの最善の利益の考慮
 - ・ 育ち・学びの支援
 - ・ 保育者同士の連携

戸外環境

- ・ 園庭 遊具・玩具・道具
動植物・昆虫
- ・ 散歩 街並み・自然
- ・ 安全

日課

- 生活 食事
- 遊び

安全

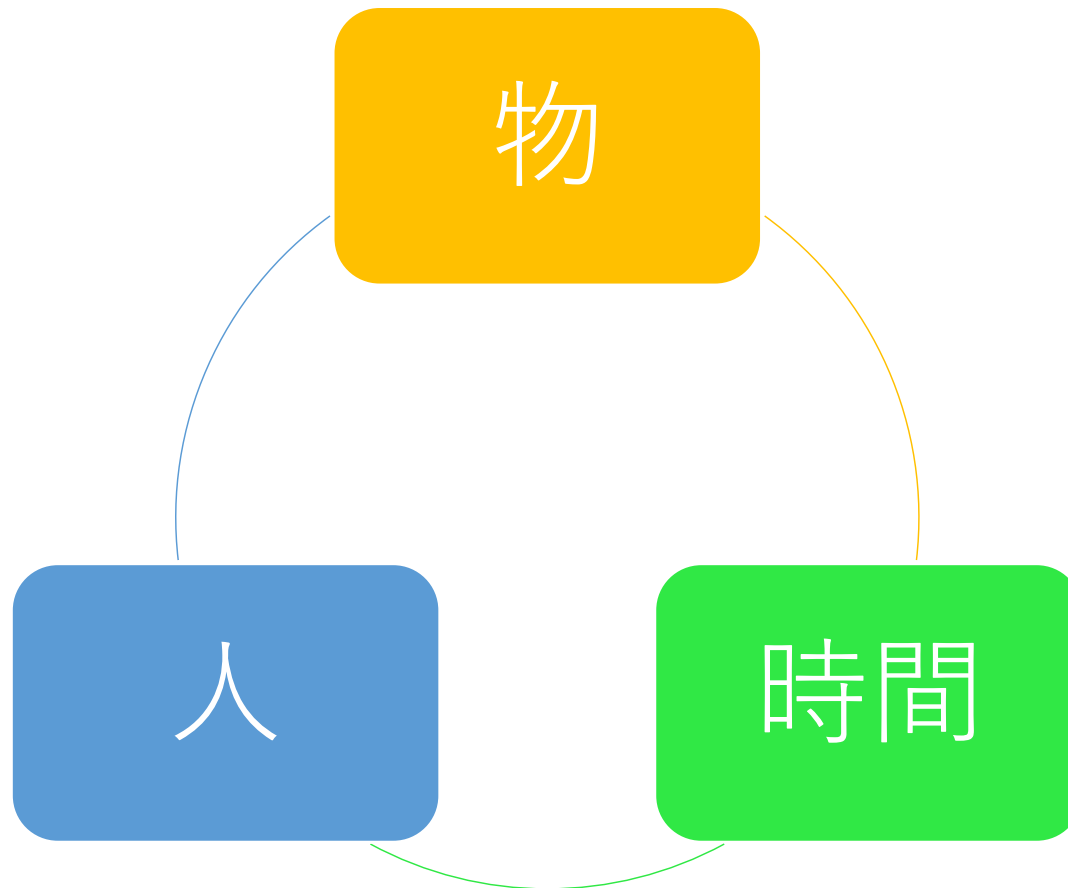
安心

夢中

計画・評価

□ 遊びづくりに大切な3つの要素

(宮田・野澤, 2021)



□ 遊びの中での物との出会い



- 何と出会ったのか？

□ 「素材」とは？

「子どもたちが日常で＜出会う＞対象」

「出会って探求（対話）していくことができる＜もの・こと・ひと＞全般」

「自然物・紙」「色」「風や光のような現象」「怒りや悲しみ、恐怖のような感情」

「大人の常識や定義づけを一度まっさらにして、子どもたちと素材を出会わせてみる」

「何が魅力的でどういう感じがするのか、どのようにそのものと関わり、何を発見するのか、子どもたちの視点や工夫を追ってみる」

伊藤(2021)

□ 自然物との出会い

「ひとつとして同じものが無い」

(伊藤, 2021)

何と出会ったのか？

何に注目しているのか？

何に魅かれたのか？

何を考えているか？



□ 表現、創造、想像

- 子ども自身が想像力を働かせつつ、アイディアを表現したり、新たなものを創造するプロセスを大事に
- ごっこ遊び 想像遊び
人間に特有の遊び
「現実とは別の世界や別の可能性を想像する」という
人間特有の能力を使った遊び
可能性を想像する力の芽生え

□ 多様性のある素材

「多様性」と「平等性」

(伊藤, 2021)

□ 多様性のある素材

「多様性」と「平等性」

(伊藤, 2021)

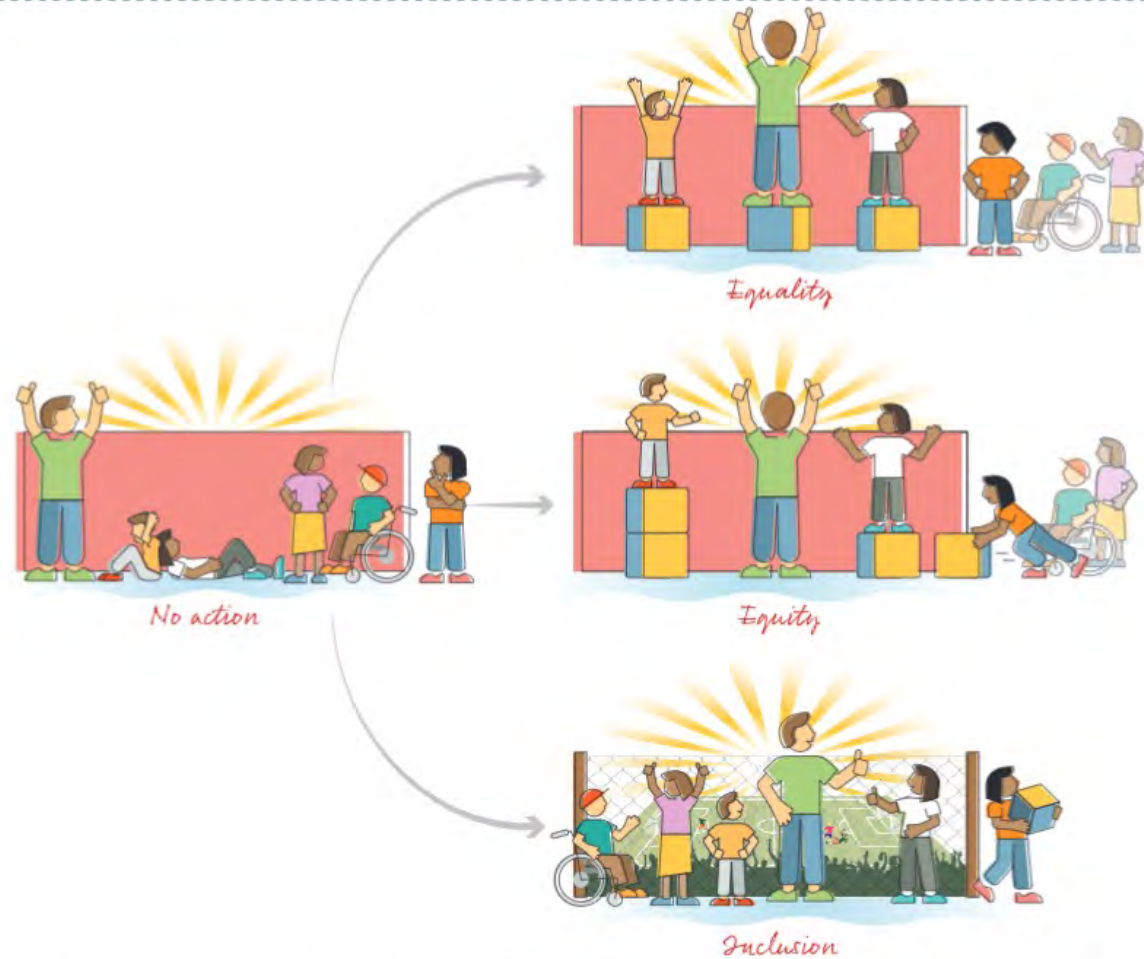
多様な中から選ぶ

どうしてそれを選ぶんだろう？

「なぜ、それを選んだの？」

□ 平等性、公正性、包摄性

Figure 1 **Equality, equity and inclusion**



OECD (2021), *Adapting Curriculum to Bridge Equity Gaps: Towards an Inclusive Curriculum*, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/6b49e118-en>.

<https://www.oecd.org/publications/adapting-curriculum-to-bridge-equity-gaps-6b49e118-en.htm>

子どもたちの百の言葉

冗談じゃない。百のものはここにある。

子どもは
百のものでつくられている。
子どもは
百の言葉を
百の手を
百の考え方を
百の遊び方や話し方を持っている。
百、何もかもが百。
聞き方も
驚き方も愛し方も
理解し歌うときの
歓びも百。
発見すべき
世界も百。
発明すべき
世界も百。
夢見る
世界も百。
子どもは
百の言葉を持っている。

(ほかにも、いろいろ百、百、は
百)
けれども、その九十九は奪われる。
学校も文化も
頭と身体を分け
こう教える。
手を使わないで考えなさい。
頭を使わないでやりなさい。
話をしないで聴きなさい。
楽しまないで理解しなさい。
愛したり驚いたりするのは
イースターとクリスマスだけにし
なさい。

こうも教える。
すでにある世界を発見しなさい
そして百の世界から
九十九を奪ってしまう。
こうも教える。
遊びと仕事
現実とファンタジー
科学と発明
空と大地
理性と夢
これらはみんな
共にあること
できないんだよと。
つまり、こう教える。
百のものはないと。
子どもは答える。
冗談じゃない。百のものはここにある。

ローリス・マラグッツィ
佐藤学訳

□ 出会いの倫理

Levinasの思想

- 他者との絶対的な違い、他者の不可知性との「出会いの倫理」を大切にする
- カテゴリーに類することができない、合計して把握することができない、既存の思考の枠組みを通して理解することができない他者として敬意を払う

Darlborg and Moss (2005)

- 子どもをカテゴリーにあてはめて理解しようとしていないか？

□ リスニング（listening 聴くこと）

● レッジョ・エミリアの教育哲学

- 他者に対してオープンである
- 他者を異なる存在として、彼・彼女の立ち位置から聴いて、経験し、同じものとして取り扱わない
- 考えを聴き、語られたことから意味を生成しようとする

Darlborg and Moss (2005)

□ 時間のデザイン

● 時計の時間と心の時間

- 子どもは、時計の時間の感覚を生まれた時から身につけているわけではない（野澤, 2021）
- 時計の時間は、人々が共通の時間で生活できるようにするための社会的な取り決め
- 人間には、時計の時間とは別に主観的に体験される時間がある

⇒子どもたちはどのように時間を体験しているのか？
保育においてどのように時間をデザインするか？

2) 保護者支援・保護者との連携

□ 現代の子育て家庭の特徴



少子化と子育て家庭の減少

地域共同体の子育て機能の低下

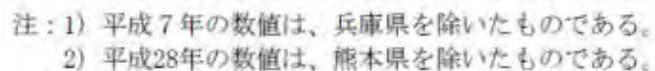
家庭の子育て機能の低下と子育て不安

働く保護者の増加

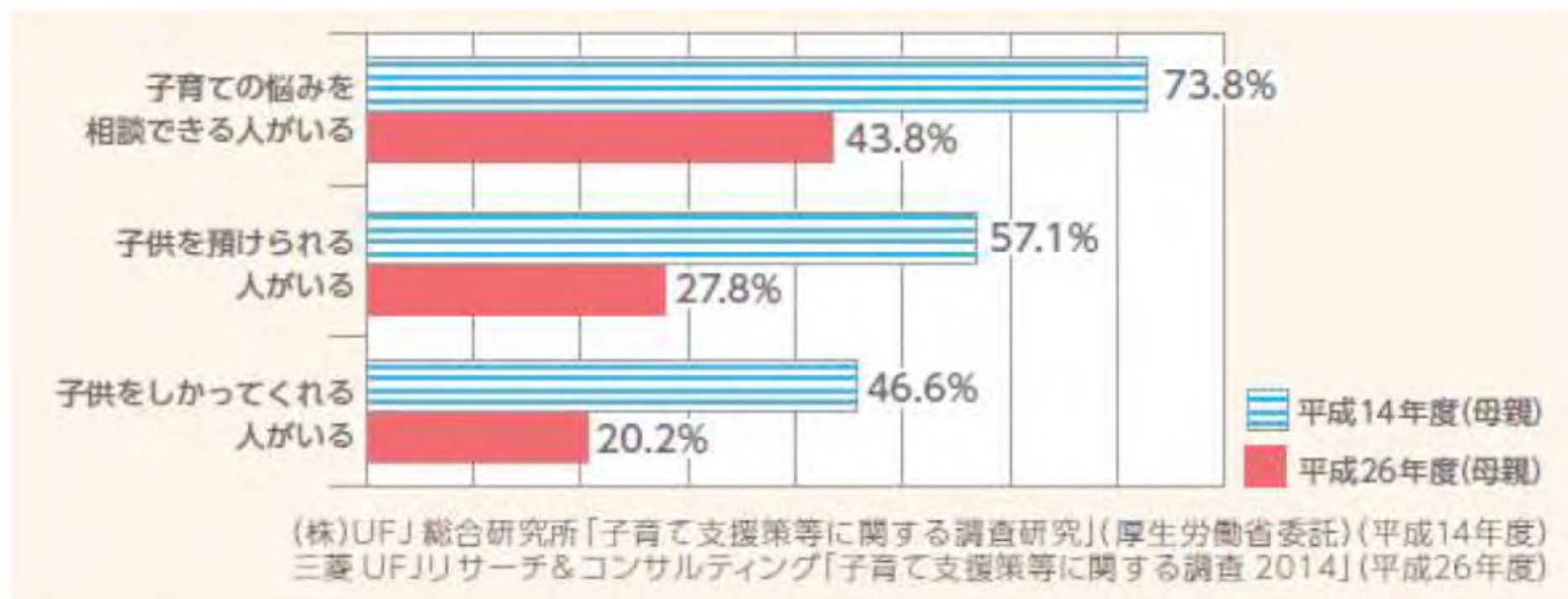
家族の多様性

平成29年 国民生活基礎調査の概況

いる世帯 ← | → 児童のいない世帯



□地域中での子どもを通じたつきあいの減少



https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/08/25/1376202_01.pdf

□ 第1回緊急事態宣言下の子育て

発達保育実践政策学センター (CEDEP) 「新型コロナウイルス感染症流行に伴う 乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査」

- 実施期間：2020年4月30日～5月12日
- 回答者数：44都道府県 2,679名
- ウェブ上で実施

＊ご協力をまことにありがとうございました＊

新型コロナウイルス感染症流行に伴う
乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査
報告書 VOL.1 (基本統計量編)

2020年6月22日
東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター (Cedep)
<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>



新型コロナウイルス感染症流行に伴う
乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査
調査期間：2020年4月30日～5月12日

【速報版 (結果の要点) vol.1】

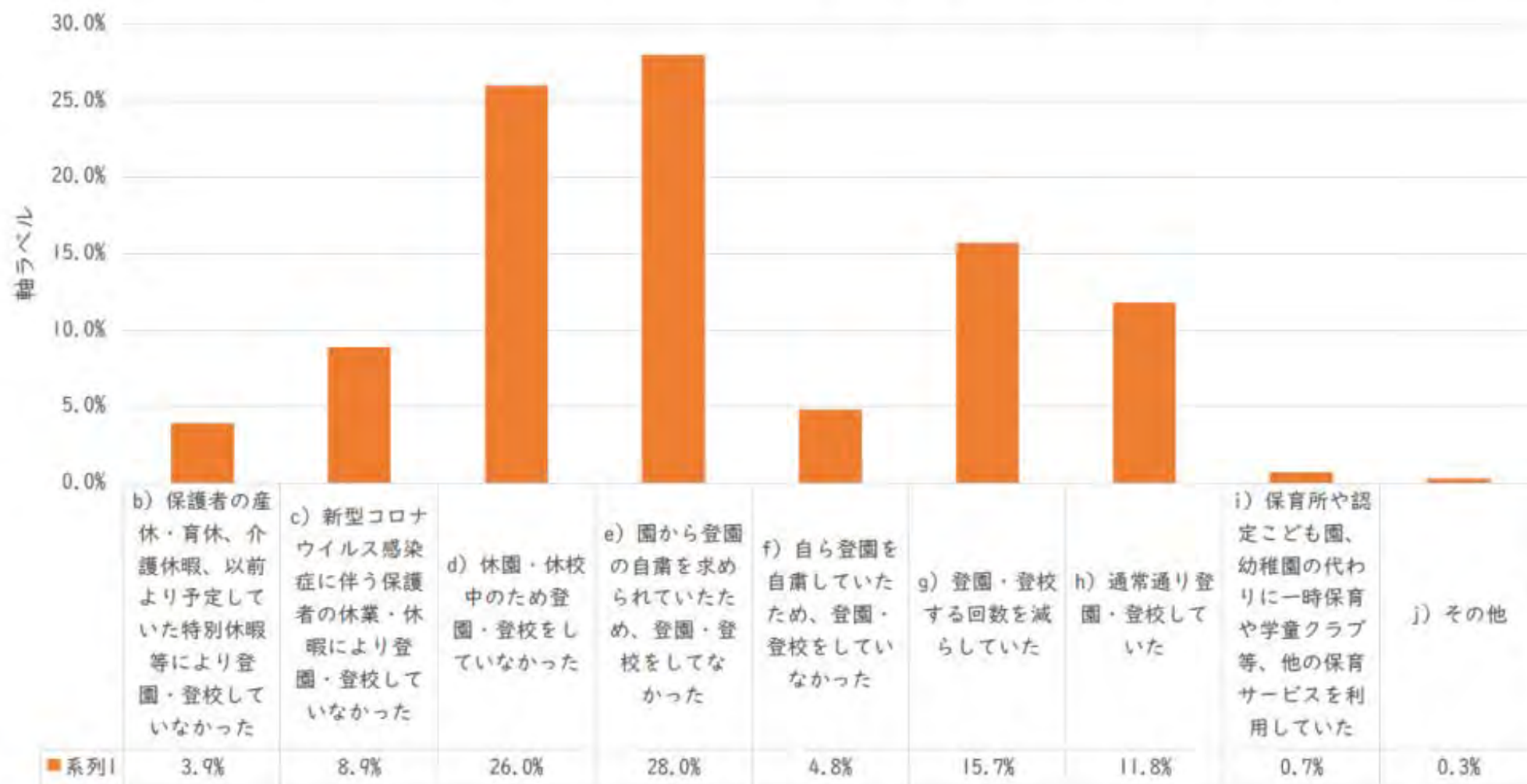
東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター (Cedep)

報告書は、CEDEP HP
にてダウンロード
できます



在園児のうち新型コロナによって登園状況が 変化した子どもは84.1% ※選択肢c～g, iの合計

設問：最年少の子ども以外の子どもの通園・通学状況 に対する回答



27
選択肢a)保育所・保育施設、認定こども園、幼稚園等に在籍していなかった534名を除くN=2145における割合

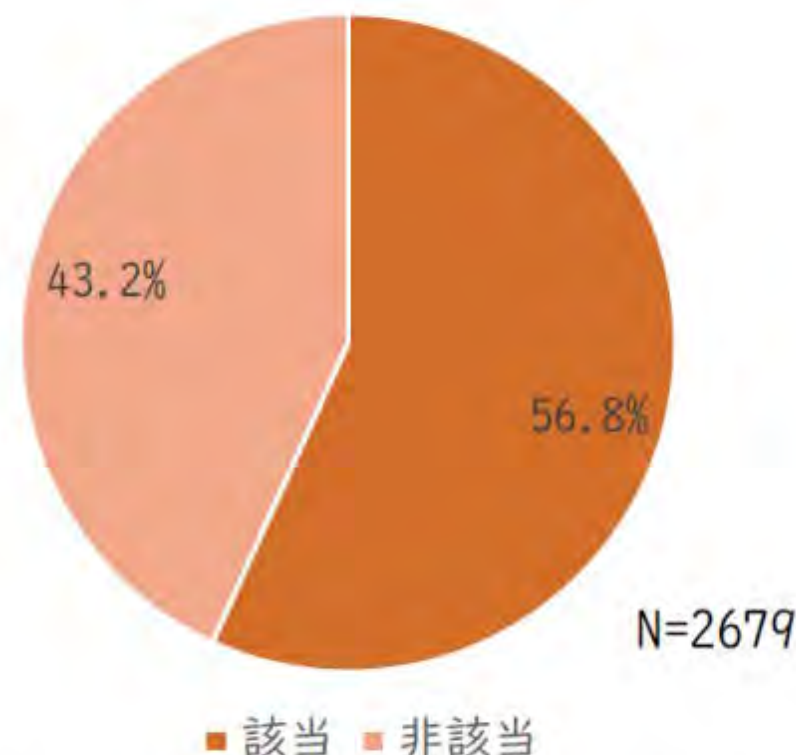
半数以上の回答者（56.8%）が、精神的健康状態が良好でない状態にあった

【該当者】精神的健康状態が良好でない回答者のこと

- WHO-5の合計得点が13点未満（12点以下）もしくは1つ以上の項目で0または1の回答があった方は、うつ病の臨床検査を受けることが推奨される

WHO-5 精神的健康状態表（1998年版）を利用（日本語版はAwata et al., 2002）

- 設問「以下の 5 つの各項目について、最近 2 週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください」（5問）
 1. 明るく、楽しい気分で過ごした
 2. 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした
 3. 意欲的で、活動的に過ごした
 4. ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた
 5. 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった
- 各設問に対して、
 - まったくない（0点）
 - ほんのたまに（1点）
 - 半分以下の期間を（2点）
 - 半分以上の期間を（3点）
 - ほとんどいつも（4点）
 - いつも（5点） のいずれかで回答



※回答者全体の平均値は12.56(SD=5.64)であり、13点(基準値)を下回っていた

「わけもなくいらいらしたり、不機嫌だったりする」ことが増えた子どもは3割以上であり、年長の子ともほど割合が高かった いつもよりも大人にくっついて離れないなど甘える様子は約半数の子どもで増加

設問“新型コロナウイルス感染症の流行以前と比べて、現在のお子さんの行動や感情はどう変化しましたか。以下の行動・様子について、変化の有無を教えてください。”について、

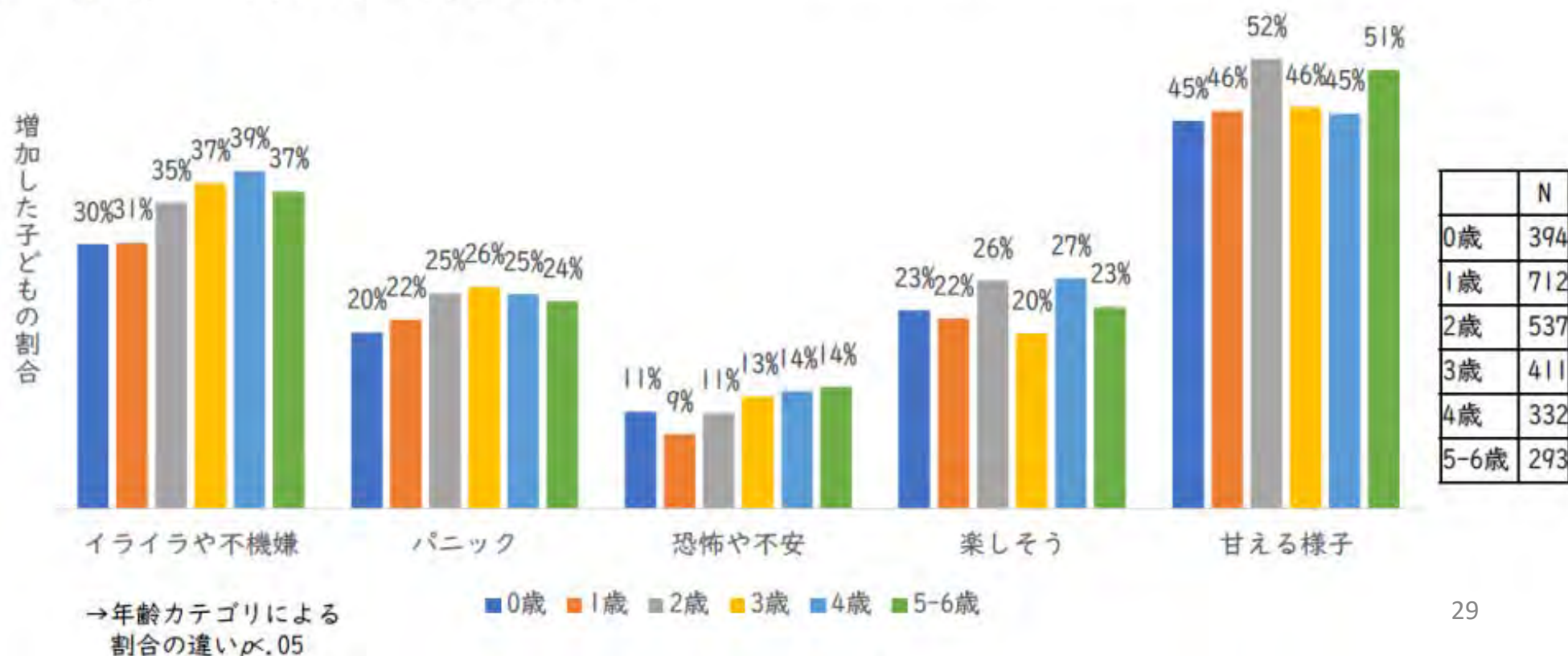
【イライラや不機嫌】わけもなくいらいらしたり、不機嫌だったりする子どもの様子

【パニック】突発的なことが起きたり、自分の思い通りにいかなかったりすると、パニックを起こす子どもの様子

【恐怖や不安】恐怖や不安の表れ方で心配な子どもの様子（例、恐怖や不安が外に表れない、急に恐怖や不安が表れる）

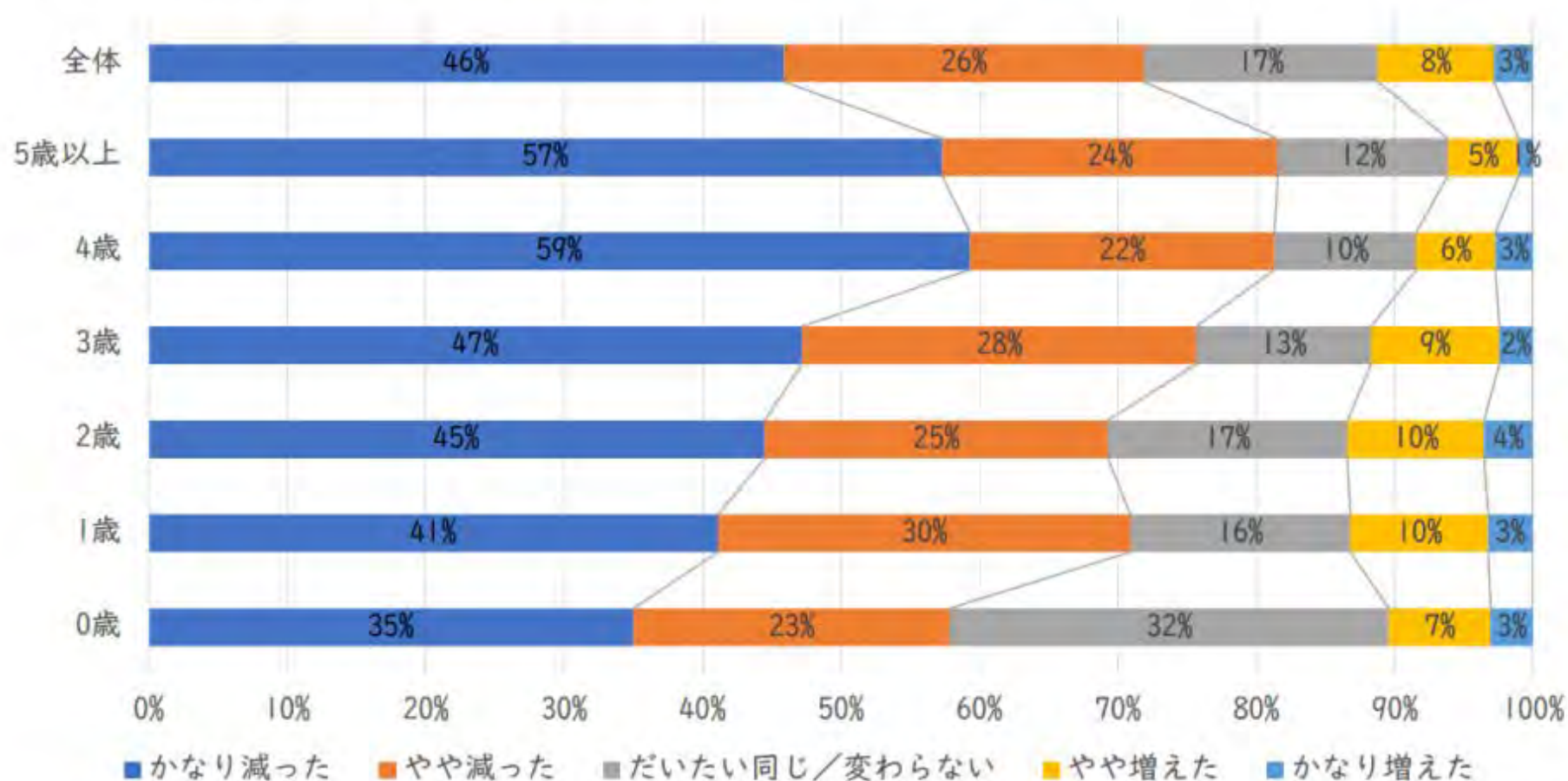
【楽しそうな様子】子どもの笑顔や笑い声、または活発に楽しそうに遊ぶ様子

【甘える様子】いつもよりベタベタと大人にくっついてきて離れないなど、大人に甘える様子
に「増えた」「やや増えた」と回答した割合



就学前の子どもの7割強で、屋外での活動時間が減少 特に4歳以上の子どもで「かなり減った」割合が大きい

設問 “新型コロナウイルス感染症の流行以前と比べて、現在の「最年少のお子さん」の屋外での活動時間は「1日あたり」どのくらい増減しましたか？” に対する回答

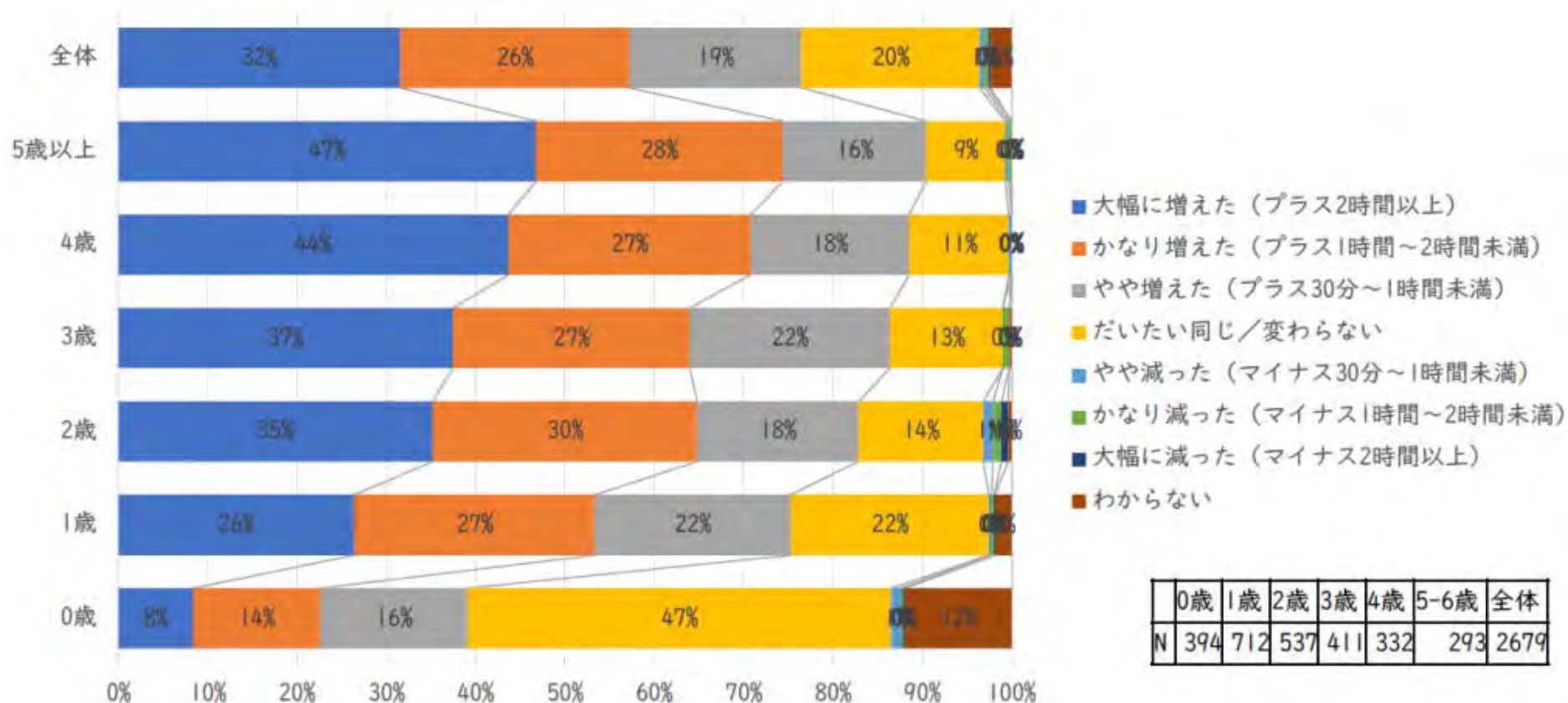


※なお、屋外での活動時間が大きく減った子どもほど、室内での運動・活動的な遊びも減る傾向がみられた

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5-6歳	全体
N	394	712	537	411	332	293	2679

子どもの年齢が上がるほど調査期間中に スクリーン・タイムがより長くなる傾向にあった 5歳以上では約半数の子どもが1日あたり2時間以上増加

設問“新型コロナウイルス感染症の流行以前と比べて、現在の「最年少のお子さん」が家庭で過ごす時間帯にスクリーン（テレビ、スマホ、タブレット、ゲーム画面、パソコン）を見る時間は「1日あたり」どのくらい増減しましたか？”に対する回答



□ コロナ禍における家庭の孤立

- 外出の自粛
- 祖父母との交流の自粛
- 地域の子育て支援施設の利用の制限
- 園での保育者と保護者のコミュニケーションの減少
- 園での保護者同士のコミュニケーションの減少

□幼稚園教育要領 前文

幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え，一人一人の資質・能力を育んでいくことは，教職員をはじめとする幼稚園関係者はもとより，家庭や地域人々も含め，様々な立場から幼児や幼稚園に関わる全ての大人に期待される役割である。家庭との緊密な連携の下，小学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら，幼児の自発的な活動としての遊びを通しての総合的な指導をする際に広く活用されるものとなることを期待して，ここに幼稚園教育要領を定める。

□幼稚園教育要領 第1章 総則

第6 幼稚園運営上の留意事項

2 幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにするものとする。その際、地域の自然、高齢者や異年齢の子供などを含む人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫するものとする。また、家庭との連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりなどすることを通じて、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるよう配慮するものとする。

□人間の子育ての三つの関係（ゴプニック, 2019）

①夫婦の関係

夫婦の絆と父親の子育てへの参加

②祖母と孫の関係

メスが長生きして孫の世話をする

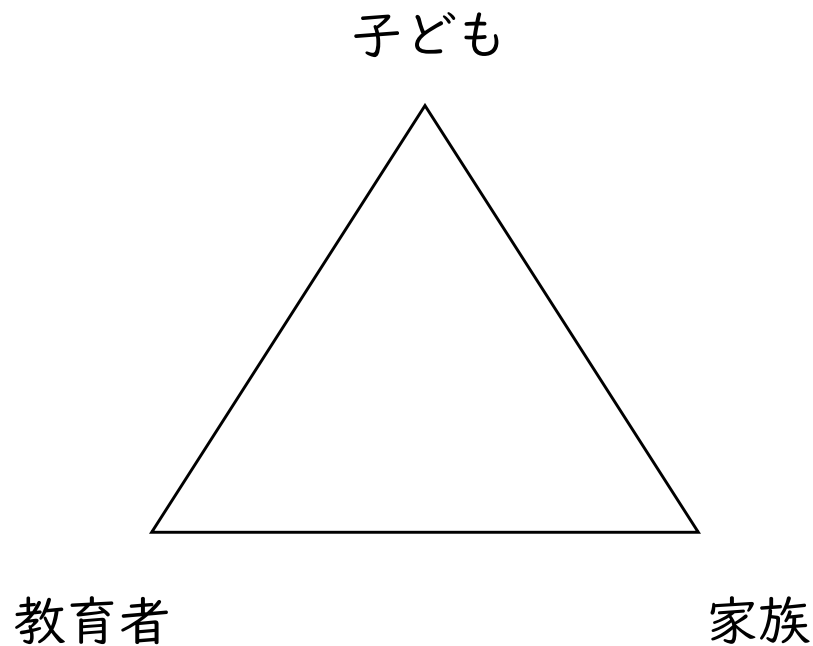
③アロペアレント（仮親）の関係

集団の中で親以外にも育児を引き受ける者がいる

「共同育児」が人間の子育ての特徴

□ 保護者の「参加」の考え方

- 3つの行為主体



第1章 子どもたちの傍らで
現場で形づくられる教師たちの知



- 子ども、教育者、家族の主体は分かちがたく統一されたもの
- 園が自らの活動を十全に展開しようとする、単に子どもたちがここにいてよかったと思うだけではなく、そこで働く職員や親たちがそこで幸福を感じることができるよう工夫を凝らす必要がある
- システムというものは、それぞれの主体がかみ合って動いていくもので、一方の主体が幸福か、不幸かは、他の主体の幸不幸と単に関わるだけではなく、相互に依拠してさえもいる

(p35)

□ 保護者との連携

- 保育の理念や方針を伝える
大事なことは何度も伝える
- 保育・子どもの姿の可視化・共有
ドキュメンテーション、動画配信等
保護者が保育について想像するのは難しい
- 対話・参加の機会をつくる
保護者を「お客さん」にしない

➤ 話し合ってみましょう

どちらかを選んで話し合ってください。

①遊びを豊かにするための「物」「人」「時間」について園の実践や、これからしてみたい実践について話し合ってみてください。

②保護者との連携における課題や、これからしてみたい実践について話し合ってみてください。

発達保育実践政策学センター (Cedep) とは

- 2015年7月に設立された、乳児期からの保育・教育を研究する研究機関

